

私の描く平和

読谷中学校 一年六組 西銘 楓子

「明分、私の頭の中の平和って、青く広がる空の下、安心出来る空間で自分が自分らしく過ごせる世界なんだろう。」

私は平和について考えました。考えていくうちに平和ってなんだろう。という疑問が浮かびました。私の平和は、皆が笑顔で安心して暮らせる世界が平和な世界だと思います。

平和な世界が、という思いはみんな同じだと思います。でも、やっぱり世界は平和で溢れてはならないだろう。という疑問も増えました。

沖縄は今も基地を抱えています。幼いころ母や祖父母と一緒に、これ以上沖縄に基地を増やしてはいけないうと故公羽長知恵の声を聞きました。

聞きました。暑中納涼、自分は、沖縄に基地を増やすアメリカは、一方的に悪いと思います。でも今は、沖縄に基地がある理由が少しは分かります。沖縄に生まれて、沖縄

に生きる私たちもが考えるべきことは、戦争を
決して繰り返しては行けないうことです。
それなのに、基地はあり続け、戦争への準備
は絶え間なく続けられています。私たちの声
や願いが叶うこと、和解すること、がそのな
に
難かしのたるうかと不思議に思っています。

今年の春、中学生になる前に、広島を訪れ
ました。原爆ドームの周囲は柔らかな桜のど
ろり色に包まれ、とても幸せな気持ちになり
ました。その気持ちと反面に、このきれいな

場所であるのよな悲惨で悲しいことが起こ
たと思えば胸が苦しくなりました。そして、
記念資料館へ行き、展示を見ました。私は見
ている途中で気分が悪くなり、とても辛くな
りました。戦争の悲劇は体験しなくても、記
録を読むこと、体験を聴くこと、そして想像
すること、だと分かります。でもどうして、世
中が当たり前に平和で溢れていないの、誰の
せい、誰が悪いのだろう。と、疑問を改め

こ、思った一日でした。
平和とは何か母と話したとき、母が「
ました。
正義は一つの顔をせが、立場でどんどん顔
が変わるんだよ」。
それを聞いた時私は、よく分かりませんでし
た。戦争が始まるとき、群衆は正義を語られ
る。二〇〇一年九月十一日アメリカ同時多発
テロが起こった後、アメリカは戦争を正義の
ために開始した。母はその時それは正しいこ
とだと感じたそうです。戦争を始めることが
正義になり、平和を創るために必要だと。
平和のための戦争、領地を広げるための戦
争、自分たちの宗教を貫くための戦争、自分
たちの大切な人を守るための戦争、私は戦争
は悪いことだとおもう。これだけ、目的が平和
すなわち人々が幸せになることならいいの
かな、という思いがどこにもありません。平
和、
な、
なりました。

トランプ大統領は退任したか、任期中に戦争を起さなかった大統領らしいです。人かも。でも本当かな。ちょっと調べた。うとおもいました。もしかして私が出ること。これなんじやないかな。今世界で起こっていることを調べることで、何か本場で何か嘘なの、世界はどうなるの、中国や韓国はいつまで日本がまらんなの、沖縄にいつまで基地が必要な、沖縄はどうなるの、分からな。ことを私なりに調べて納得して、答えを

みつけたいです。この作文を書いたら、これは私なり、の答えを探すと、いろいろです。平和にっ、こ考えるのは、難しいけど、私が自由で私らしく過ごせることを求めることが、平和であるならば、他の人の平和も大切にしたいです。私はあまり友達が明い方ではないけど、誰も傷つけたくないし、皆にも苦しい思いもして欲しくはない。明分それが一番身近な平和かもしれない。小さな平和を私の周りに増し

たり。それはちっぽけな私どもでもきるかもし
れなり。この作文を通して、平和のことが少
し分かった気がする。